第 33 回 日本脳神経血管内治療学会学術総会　参加報告

札幌医科大学附属病院　平野　透

第 33 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会(Japanese Society for Neuroendovascular Therapy :JSNET)が東京のグランドプリンスホテル新高輪で 2017 年 11 月 23 日（木）~25 日（土）に開催されました。この学会は名前の通りカテーテルを用いた脳神経領域の血管内治療に関する学術大会であり、基本脳神経外科医の学会でありますが、看護師、臨床工学士、工学系の研究者そして脳神経血管内治療に興味を持つ診療放射線技師も参加しています。今回の JSNET では参加総数が約 3000 名弱と聞いていますが、そのうち診療放射線技師は約 260 名と全体の約 8%ではありますが、脳神経外科医の学会に診療放射線技師が 260 名弱も集まるなんて凄いことだと思いませんか？

学会は朝 7 時すぎ Continuing Education Program(CEP)から始まり、一般口演、ポスター発表、シンポジウム、イブミングセミナー等、総演題数 1,390 題と JSRT や JART の学術大会の 2 倍以上の学術発表があり最新の手術手技から手術支援の取り組みなど話題満載な三日間でした。また会場は朝の CEP から多くの参加があり初日 8 時過ぎの会長講演では最も大きな会場で立ち見状態になり、午後からのポスター会場では参加者が多すぎて身動きが出来ず、学会本部へクレームがあったくらい盛況でした。午後や最終日などでは参加者が疎らになる学会も多い中、JSNET は三日間ほぼ会場満席で本学会に関する感心度の高さを感じました。

JSNET では診療放射線技師セッションも幾つかあり、今回は CEP が 1, シンポジウムが１、防護シンポジウムが１、一般セッションが 4、ポスターセッションが 7 と年々プログラム数が増え、学会自体が診療放射線技師の積極的な参画を望んでいるそうです。

個人的に興味深かった内容としては急性期血栓回収療法症例に対する報告です。来院から再開通までの時間短縮を行う中で、画像診断までの時間も大きく関与しており時間短縮のためにどのようなモ

ダリティーやプロトコル、更に搬入された場合の組織体制など組織として、職種として多くの施設の方達とのディスカッションの必要性を感じました。

第一会場の様子　常に満席の状態でした

もう一つは数値流体力学（Computational Fluid Dynamics ：CFD）の研究発表やシンポジウムでしたが、多くの先行研究から脳動脈瘤画像診断の一つの手法に確立されてきたように思えます。また個人や施設ごとの研究業績に留まるのではなく、研究データを多くの施設で共有し、オールジャパンとして日本から CFD の技術を世界へ発信していこうという雰囲気になってきていました。CFD 研究には臨床医、工学研究者そして CFD の画質の最適化や標準化のため我々診療放射線技師の連携が必要になるかと思います。以前から報告しています CFD 画像の適正化を検討する研究班（team phantom）の打ち合わせも学会会期内に行い、増えてきている CFD ユーザーのために適切な撮影条件の検討などを多くの施設に報告できるよう打ち合わせを行いました。今回は診療放射線技師と工学系の研究者、

更にCFD研究を古くからされている脳神経外科医の先生にも参加してもらい、充実した時間を持てたのではないかと思っています。

Team phantomの会議終了後の記念撮影

来年のJSNETは仙台で11月中旬に開催されます。今年度よりも多くの診療放射線技師向けのCEPやシンポジウムなども企画しているそうです。医師の学会で放射線技師のセッションは面白くないと思われる方もいるかもしれませんが、手術・診断画像領域のセッションと考えて頂ければと思います。今年も脳外科医も参加していますし、我々の研究をアピールできる場になりつつあると思っています。

来年のJSNET行きましょう！、、、牛タンも食べに、、、、